他地域での経験による地元地域への態度変化
～高知県梼原町の若者を対象として～

1220507　徳弘　恵
指導教員　那須　清吾

研究背景

日本では地方の過疎化が深刻化しており、若者の地元離れという言葉が生まれ問題視される社会にあるが、一方で地方に生まれ育った子供、若者にとって、自由に進路を選択し、地元から出て他の地域の経験をすることは悪いことなのだろうか。他の地域の存在や人、モノ、仕事などの多様性を知り、自身や地元地域を見つめなおす経験をすることで、地域に対する態度が変化するのではないかという疑問が生まれた。

研究目的

本研究は、進路選択後の他地域でのさまざまな経験がもたらす地元地域に対する態度への影響を分析し、若者の自由な進路・地域選択の意義と効果について仮説の検証を目的とした。

調査・分析方法

高知県梼原町の若者 16 人を対象に進路選択後の態度の変化について通話形式でインタビュー調査を行い、態度変化を表す心理モデルを作成することで分析を行った。

分析結果

他地域での経験によって地元地域を客観視することができ、地元の地域理解を深めることにつながっている。この理解が深めることで地元に対する信念に影響を与え、態度を変容させており、地元への愛着と不満の変化についても影響があることが明らかになった。

考察・結論

地方の若者にとって地域外への進路選択を行い、他地域の経験をすることは地元への理解を深めることに繋がり、不満を受け入れ、愛着を強めやすいという心理的効果がある。また、他地域での経験によって多様な選択肢について知り、将来の夢や地域の選択に役立っており、若者自身の成長や人生設計の観点において、他地域の経験は意義のある選択である。